

※当資料は、DWS グループが 2021 年 1 月 12 日に発表したニュースリリースをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳したものです。



ニュースリリース

フランクフルト

2021 年 1 月 12 日

DWS、IFRS財団に対し、ダブル・マテリアリティに基づく一貫したESG報告基準の導入を求める

- DWS は、IFRS 財団（国際財務報告基準財団）に対し、ダブル・マテリアリティ^{*}に基づく一貫した ESG 報告基準の導入を強く求めました。
- 資本がどのように活用され、また世界にどのような影響を及ぼしているか、投資家の関心がますます高まる中、現在の ESG 報告フレームワークは十分とはいえません。
- 非財務報告も財務報告と同様に重要なものであり、経営陣が説明責任を果たすとともに、完全に監査可能である必要があります。

※マテリアリティ＝重要性。「ダブル・マテリアリティ」とは、環境・社会が企業業績等に与える影響（財務の重要性＝投資家視点の重要性）と企業が環境・社会に与える影響（環境・社会の重要性＝ステークホルダー視点の重要性）を統合した考え方。

DWS は IFRS の評議員会に宛て、「サステナビリティ報告に関するコンサルテーションペーパー」に対するコメントレターを提出し、気候変動関連データ以外も対象にした、ダブル・マテリアリティに基づく一貫した ESG 報告基準の導入を強く求めました。これはサステナビリティ（持続可能な社会や環境を目指す動き）に関わる問題が企業に与える影響だけでなく、企業が社会や環境に及ぼす影響についての情報も開示することを意味します。

このコメントレターの中で、DWS のリサーチ責任者であるフランチェスコ・クルトは、現在の ESG フレームワークは投資家にとってすでに不十分なものとなっており、多くの投資家は投資した資本がどのように活用されているかについて開示を増やすよう求めていると警告しています。しかし、そういった必要とされる情報を提供する上で、我々は大きな課題に直面しています。昨今、投資家は、サステナビリティの問題に起因する外部性が企業に与える影響を評価するだけでなく、自らの資本が世界に与える影響も評価することにますます関心を高めています。さらに最近の DWS の調査では、グローバルな ESG 会計基準がない限り、ESG 投資は、多くの投資家が期待した効果をあげられない可能性が示唆されています。

クルトは次のようにも説明しています。「株式投資は本来長期的なものであるはずですが、会計基準が時代に追いついていないがために、長期的な視野を持つ投資家に加え、一般の人々までも多くの緊急の課題に直面しています」。したがって、DWS は IFRS に早急な対応を求めています。

具体的には

- サステナビリティに関するダブル・マテリアリティの報告に本格的に焦点を当てることを推奨します。投資家やクライアントのニーズを考慮すれば、必要不可欠なことと考えます。
- 非財務報告についても、経営陣が説明責任を果たすとともに、完全に監査可能である必要があると考えています。非財務報告は財務報告と同様に重要なものです。そのため、段階的なアプローチをとってはいは上手くいかない可能性があります。
- 財務報告と非財務報告の境界はすでに曖昧であり、非財務報告を行わないということは、国際会計基準審議会 (IASB) の定款第 2 条で定義された目的を達成しないことを意味します。

DWS の統合報告書の責任者であるメルコ・ファーバーは次のようにコメントしています。「報告とは、会社のすべての業績と活動を集約したものです。非財務報告が財務報告と同様に重要であるという点はコンセンサスとなりつつあり、その結果、非財務報告についても経営陣に説明責任を負わせ、完全に監査可能にしていく必要があります。」

より詳しい内容および DWS のコメントレターの全文は、[IFRS のウェブサイト](#)で公開されている DWS のコメントレター ([item 503](#) および [item 528](#)) をご参照下さい。

当ニュースリリースの原文(英語)は[こちら](#)

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSグループが作成・発行したものをドイチェ・アセット・マネジмент株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジмент株式会社が責任を負うものではありません。日本語訳とオリジナル英文資料の内容に相違がある場合には、英文資料の内容を優先します。当資料に記載の見解や見通し等は作成時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

DWS グループ

DWS グループ（以下DWS）は、約7,590億ユーロ（2020年9月末時点）の運用資産残高を誇る世界有数の資産運用会社です。60年以上の運用実績を有し、ドイツおよびヨーロッパ各地、アメリカ、アジアにおいて優れた運用体制への評価を確立してきました。そして現在、DWSは世界のお客さまから、資産運用のあらゆる分野における総合的なソリューション、持続性および革新性を提供する運用会社として信頼を集めています。

DWSは個人および機関投資家のお客さまに対し、その強固な運用体制を基盤として、すべての主要な資産クラスへのアクセスと成長トレンドを適切に捉えた資産運用ソリューションを提供します。アクティブ、パッシブそしてオルタナティブ運用における多岐にわたる専門性と、ESG（環境、社会、企業統治）投資における積極的な取り組みは、お客さまの期待に応えるソリューションを提供する上で補完的な役割を果たします。エコノミスト、リサーチアナリスト、運用プロフェッショナルが有する専門性と現地に根ざした調査は、DWSのグローバル投資見通しである「CIO View」に集約され、それが戦略的な運用アプローチ策定の根幹となっています。

DWSでは約3,400人のスタッフが、一つのグローバル・チームの一員であるという高い意識を持ちつつ、各国・地域に精通する専門家として活躍しています。我々は資産運用に革新をもたらし、未来に向けた資産運用ビジネスを形作ることを目指しています。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第359号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・公的年金・企業年金運用の長年にわたる経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。